平成二十八年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜　全日制の課程

Ⅱ　国　語

注　意　事　項

1　開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

2　問題は **問五** まであり、1ページから14ページに印刷されています。

3　答えは、解答用紙の決められた欄（らん）に、はっきり書き入れなさい。

4　解答用紙にマス目（例：□）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。

5　終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受検番号
番

問一　次の問いに答えなさい。

(ア)　次の各文中の――線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

1　選手代表が高らかに宣誓する。
2　力強い跳躍によって記録が伸びる。
3　野生動物に畑を荒らされ憤慨する。
4　手続きの簡略化で煩わしさを解消する。

(イ)　次の各文中の――線をつけたカタカナを、漢字に直しなさい。（楷書で大きく、丁寧に書くこと。）

1　少子化対策のためのザイゲンを確保する。
2　親友のチュウコクで己の言動を省みる。
3　飛行機がヘンタイを組んで飛ぶ。
4　収穫したての芋をムす。

(ウ)　次の文中の――線をつけた「に」のうち、同じはたらきをするものの組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

> まだ風は冷たいのに(ア)木々の枝先には(イ)早くも芽が出はじめて、この山里に(ウ)も確実に春が訪れているのを感じた。

1　アとイ　　2　アとエ　　3　イとウ　　4　ウとエ

(エ)　次の短歌を説明したものとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

> ゆふぞらにみづおとありしそののちの永きしづけさよゆふがほ咲く
>
> 小島　ゆかり

1　夕方の空が雨雲に覆われて暗くなり、白い夕顔の花が激しい雨に打たれているという風景を、天候や明暗を対比させながら、上空の雨雲から花に視点を移動することで絵画的に表現している。
2　夕方の空に水の音が響いたのち、長く静かな時間が流れて夕顔の花が咲くという情景を、動と静を対比させながら、ひらがなを多用し「ゆふ」という音を重ねることで印象的に表現している。
3　夕方の空が雨雲に覆われて暗くなっても、白い夕顔の花が咲くのを静かに待っている人々の様子を、時間の経過を意識させるために「永き」「咲く」という漢字表記を用いて写実的に表現している。
4　夕方の空に響いた水の音が長い静けさを破ったことをきっかけにして、夕顔の花が次々と咲いていく美しい光景を、五感を生かした構成や色彩を感じさせる言葉によって感覚的に表現している。

問二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東の京、雲居寺といふところに、瞻西上人といふ人いまそかりけり。智行ともに備はりて、ひたすら現世を関心がないと見放して）ひとへにこの世をなん思ひ捨てて、わくかたなく後世の営みのみにて侍りけり。

あるとき、冬なりけるなむめり、けしかる女出で来たりはべりて、「あまりに寒くはべり。いかばかりのものなりとも得たまはせよ。」と聞こえはべれば、さこそ寒かるらめと、あはれに覚して、着たまへりける小袖をなむ給はりてける。

さて、あくる日、又ありし女来たりて言ふやう、「昨日の小袖は、はからざるに、失うてはべり。又給はらん。」と言ふ。やがて又給ひてけり。さてあるべきかと覚すところに、又つぎの日、莚ばかり身にまとひて「着物ひとつ給べ。」と言ふやう、この上人心得ず覚して、のたまふやうは、「二度は慈悲をもつて汝に与へぬ。さのみは身の力なし。かなふまじ。」とのたまふとき、この女、気あしくなりて、「汝は極まりて心小さかりけり。心小さき人の施をば、我受けず。」と言ひて、ふたつの小袖を投げ返して、かき消すがごとく失せはべり。上人、化人の来たりて、我が心をはかりたまへりけるにこそとて、心のほどを自ら恥ぢしめて、悔い悲しみたまへりけるぞ、あはれにかたじけなく覚えてはべる。

聖の心のつゆばかりもけがれざりければこそ、澄める月の空曇りする誤りもはべりけめと、かへすがへすゆかしく覚えてはべるぞや。

（「撰集抄」から。）

（注）この上人＝「瞻西上人」のこと。「上人」「聖」も同じ人物。
化人＝仏・菩薩が仮に人間の姿となって現れたもの。

(ア)　――線1「着たまへりける小袖をなむ給はりてける。」とあるが、「瞻西上人」が身につけていた衣服を「女」に与えた理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　衣服を渡したくはないが、「女」に親切にすることで世間での評判が高まると期待したから。
2　あまりに寒いのでどんな物でもくださいという「女」の訴えを聞き、気の毒に思ったから。
3　初めは怪しいと疑ったが、何も持たず一心に修行に励んでいる「女」の姿に感動したから。
4　しつこく衣服を求めてくる怪しげな「女」の訴えを聞き、もう関わりたくないと考えたから。

(イ) ――線2「かなふまじ。」とあるが、その内容を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「女」が着物を何度も欲しがることに納得できないので、重ねて与えるつもりはないということ。
2 「女」は現世の利益を求めているが、極楽往生を願わなければ助けるつもりはないということ。
3 「女」に目先の施しをすることが、本人にとって真実の救いになるのかわからないということ。
4 「女」の求めに応じたいのに、肝心の与えるべき小袖がなくなってしまい申し訳ないということ。

(ウ) ――線3「ふたつの小袖を投げ返して、かき消すがごとく失せはべり。」とあるが、そのときの「女」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「瞻西上人」をだまして小袖をもらったことが、仏の道に反していると心から悔やんでいる。
2 「瞻西上人」が仏の化身であることを知って恐れおののき、自分自身の強欲さを恥じている。
3 「瞻西上人」に小袖を隠していたことを見破られて、ふてぶてしい態度に出ようと考えている。
4 「瞻西上人」の心の狭さを知って失望し、そんな人からの施しは受けないと気分を害している。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「女」は、立派な僧と名高い「瞻西上人」の本性を知るために非難したが、澄んだ月のような「上人」の人柄に感動して仏の教えを信じるようになった。
2 「女」は、困ったときには仏にすがるようにという親の教えを守って「瞻西上人」を頼ったが、最初のうちは親切だった「上人」が冷たくなったことに失望した。
3 「瞻西上人」は、着物を何度も求められた一連のできごとが、自分の心を試そうとした「化人」によるものであると悟り、自らの行いを後悔して悲しんだ。
4 「瞻西上人」は、世間との関わりを断って修行に専念していたが、「化人」の行為をきっかけにして自分の心を乱されてしまい、世間の人々を疑うようになった。

問三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

藤ヶ丘女子高校一年生の「夏樹」は、同じ一年生の「理香」「真名」と二年生の「茜先輩」「瑞穂先輩」、マネージャーの「トーコ先輩」とともに創作俳句の作句と鑑賞の力を競う「俳句甲子園」に出場した。「赤」の藤ヶ丘女子高校と「白」の中央光高校の試合は一勝一敗の接戦である。

「いや、この決勝トーナメント第一回戦、白熱したいい勝負が続いています！」

1 司会の明るい声が、申し訳ないが耳障りだ。すでに三十六校のうち二十四校は敗退したわけで、当然そういう学校は客席に陣取っている。さっき夏樹が論破した学校の生徒たちも無表情に顔を並べている。

別にみんながこちらに敵意を持っているわけではないだろう。一番前の審査員五人もほぼ柔らかな表情だから、試合内容も悪くはないのだろう。

ああ、でも今はそんなことは全部どうでもいい。とにかく勝ちたい。

試合はたしかに白熱していた。

中堅戦。

（赤）夕焼空遁走曲楽譜散乱

理香のこの句も大好きだ。なのに、相手チームの披講（注）を聞いたとたん、それに気を取られてしまった。

（白）夕焼雲でもほんたうに好きだつた

この句が詠みあげられると、会場中がざわめいた。夏樹だけではない、藤ヶ丘の五人ともちょっと呆然とした。

「なんて句を詠むのよ……。」

うめいたのはたぶん、瑞穂先輩。夏樹も一瞬頭が真っ白になった。

これ、どう攻めればいいんだろう。

夕焼雲でもほんたうに好きだつた。

ストレートすぎて、そりゃそうだ、という感想しか浮かばない。

あ、いや違うな。ぱっと思い浮かんだ感想は、ああわかる、だ。きっと作者は泣いているんだろうな。

その涙にも夕焼がうつる。2 ……なお悪い。

どうしよう。シュシュ（注）を左手に移したのは真名、そして瑞穂先輩まで。

だが3 夏樹は心を決めて発言権を勝ち取る。

「この句、ストレートで印象的ですが、表記はどうでしょう？『ほんたうに好きだつた』と歴史的仮名遣いのひらがな表記にしたことで、せっかくのまっすぐな句意が伝わりにくくなったのではないでしょうか。」

とにかく、発言しなければならない。黙っていたら、鑑賞点は必ず相手に持っていかれる。でも、相手に落ち着いて反論された。

「鑑賞ありがとうございます。でもこの表記は効果がないでしょうか？　お言葉のとおりまっすぐな句です。それは誰でも、いつの時代のどんな人間でも、夕焼雲を眺めてこんな思いを抱いたことを暗示しませ

んか？　時代を超えてという効果を表すためには、この表記が最適だと思います。」

場内から拍手。

判定は、赤一本、白四本。

……負けた。

それでも夏樹は懸命に息を整える。まだ終わったわけじゃない。たしかにこれで藤ヶ丘は一勝二敗だけど、ここから盛り返せばいいだけだ。

言うことを聞かずに震える手でシュシュを握り締め、夏樹は次に備える。

副将戦。

（白）夕焼雲砂に崩れし文字一字

（赤）夕焼やカンバスに足す黒一筆（くろひとふで）

真名の句だ。夕焼けの複雑な色彩を『黒一筆』が際立（きわだ）たせていると主張して、藤ヶ丘はどうにか勝てた。つながった！　食い止めた！

「さあ、これでどちらも二勝、勝敗の決定は大将戦にもつれ込みました。」

ああ、さっきうちが破った高校のなんとかさん――名前を覚えていなくてすみません――、そこに座っていてくれてかまわないから、せめてそんなこわい顔しないでくれないかな。それから審査員の先生、ずっと白と赤の旗を手でいじっているのもやめてくれないかな。胃がきりきりしてくるんだけど。

選手席に座っている以上、夏樹もほかの四人も、いやでも客席が目に入ってきてしまうのだ。

と、夏樹の目の端で何かきれいな紫色のものが動いた。

藤ヶ丘チームのシュシュだ。夏樹が右手につけているのと同じ、藤ヶ丘のみんながおそろいで持っているものだ。今、そのシュシュがなぜか宙を舞っている。

……先輩、何やってるんですか。

どういうはずみか、トーコ先輩がシュシュを頭の上まで放り投げてしまったらしい。まるでお手玉でもしているかのように一つ、二つ、三つ。一つはどうにか受け止めたものの、あとの二つは隣の人の足元に転がったようで、先輩、あわてて謝りながら拾い上げている。

4

そして先輩は三つとも右手にはめて、こちらに向かって小さく手を振って見せた。

右隣の理香がくすっと笑う。つられて夏樹も。笑ったら、また息が楽にできるようになった。

左隣の茜先輩が肩を回しながらささやいた。

「みんな、トーコのメッセージ伝わったね？」

「はい。」

夏樹も、その隣の理香もしっかりとうなずいた。そう、今は、シュシュをはめた右手を上げ続けることだ。しゃべり続けること。それが夏樹の武器だ。理香や真名みたいな特技があるわけでもなく、先輩たちみたいな知識も持っていない夏樹の。

これで最後になるかもしれないけど。

いや、これで最後になるかもしれないから。

大将戦。

藤ヶ丘の披講は茜先輩。

（赤）大夕焼思ひ出せぬことありながら

（白）大きなる眼夕焼雲ひとつ

「赤の句、思い出せないことがあるというのは鬱屈を抱えているということですよね？　でも、そうした内向きの感情は、まっすぐで開放的な夕焼けとそぐわない気がするのですが。」

白チームのたぶんリーダー格の人、たしかに上手にしゃべる。

でも、その内容はだいぶマニュアル的だ。

兼題（注）との取り合わせは的確か。イメージがずれていないか。

大丈夫、このくらいの攻められ方なら、夏樹を含め、藤ヶ丘の会員全員が対処できる。

「夕焼けのイメージは開放的とおっしゃいましたが、それだけでしょうか。夕焼けはもちろん大きくて美しい、でも、その大きさや美しさが人間の小ささやみすぼらしさを強調することもありませんか？　夕焼けを見た感動というのはそうした、切なさややりきれなさをも含むと思います。だって、人間の感情はそんなに単純じゃないでしょう？　嬉（うれ）しい中にもコンプレックスや不安はあるし、楽しい時にも後ろ向きなこともちらっと考えたりする。私たちみんな結構複雑じゃありませんか。」

よし。発言中に拍手をもらったのはこれで二度目だ。

「でも、そんなぐちゃぐちゃした感情を抱える人間、どうしても思い出せないことがあるのが気持ち悪い、一方で思い出せないけどまあいいやなんていい加減なことも同時に考えたりするしょうもない人間、そんな人間におかまいなく大きくて圧倒的にきれいなのが夕焼です。」

そうだ、言葉だけじゃない。人間だって複雑だ。重い水筒は面倒でも頼もしくて嬉しい。人の欠点にはすぐ気づくのに自分には甘い。うっとうしい親にも、どこかで頼る。

発言しながらも、親の顔は見ない。照れくさくなるから。

5 「そして夕焼の素晴らしさは、そんなぐちゃぐちゃした人間でも、いや、ぐちゃぐちゃした人間だからこそ、身に染（し）みるんです！」

親のかわりにトーコ先輩を見た。盛大に拍手してくれている。その拍手と一緒にシュシュもひらひら動いている。

白の句に突っ込みどころがあったのもよかった。「大きなる眼」は夕日の比喩だそうだが、そこに疑問を投げかけたのは間違っていなかったと思う。

「では……。」

みんなが息を詰めているのがわかる。シュシュをつけた手が五組、祈りの形に握りしめられている。ああ、なんでこの司会者、こんなに引っ張るかな。

「判定！」

赤三本、白二本！

周りから歓声が上がる。夏樹は判断力が戻ってこない頭のまま、ぼんやりと尋ねた。

「あの、勝てた……んですか？」

「勝ったよ、みんな！」

茜先輩がめったにない上ずった声を出している。夏樹に飛びついてきたのはたぶん理香だ。

その理香の肩越しに、トーコ先輩がまたシュシュを放り投げているのが見えた。

（森谷　明子「春や春」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）披講＝俳句などの会で作品を読み上げて披露すること。
シュシュ＝髪をまとめるための飾り。ここでは藤ヶ丘のサインとして使われており、右手にはめると「自分は発言できる」、左手にはめると「自分は発言に自信がない」という意味になる。
兼題＝句会などを催すとき、あらかじめ出しておく題。

(ア) ――線1「司会の明るい声が、申し訳ないが耳障りだ。」とあるが、そのときの「夏樹」の気持ちを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　司会は中立的な立場で事実を伝えようとしているが、からかうような軽い言葉によって自分の調子を狂わされてしまい反発している。
2　司会は闘争心をあおろうとしているが、自分は一進一退の状況を細かく分析して試合を有利に展開しようとかえって冷静になっている。
3　会場を盛り上げようという意図は理解しつつも、接戦の最中にいる自分の緊張感を無視したような司会の明るい声にいら立っている。
4　会場の選手を励まそうという司会の意図は受け止めつつも、自分は司会や他校の生徒たちからの応援が必要ないぐらい張り切っている。

(イ) ――線2「……なお悪い。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　誰からも共感される内容である反面、作者の泣いている様子や涙に夕焼けがうつる光景がいとも簡単に想像できてしまうので、作品そのものに深みが感じられないということ。
2　ストレートな思いが伝わってくる俳句であるが、歴史的仮名遣いで表記してあるために本来のまっすぐな句意が観客に伝わりにくく、減点されてしまう可能性が高いということ。
3　誰も思いつかない情景を平易な言葉を用いてまっすぐ詠んだうえに、それを鮮明に想像させる俳句には、創作力に対して高い得点が与えられるのは間違いないということ。
4　ストレートですぐに情景が浮かんで攻め口が見つからないばかりか、作者が泣いていることや涙に夕焼けがうつる様子までも想像でき、思わず共感してしまったということ。

(ウ) ――線3「夏樹は心を決めて発言権を勝ち取る。」とあるが、そのときの「夏樹」の気持ちを次の条件を満たし、**全体で四十五字以上五十五字以内の一文**で書きなさい。

書き出しの　真名と瑞穂先輩は、　という語句に続けて書き、文末は、　という気持ち。　で終わること。これらも全体の字数に入れること。

(エ) ――線4「そして先輩は三つとも右手にはめて、こちらに向かって小さく手を振って見せた。」とあるが、そのときの「トーコ先輩」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 試合に勝つために具体的な作戦を助言することで、自分の有能さや先輩としての威厳を示すとともに、勝敗についての責任は自分がとることを伝えようとした。

2 気を抜くことができない試合を続けている選手たちの緊張感を少しでもほぐそうとすると同時に、最後まで諦めずに発言し続けることが大事だと伝えようとした。

3 予想外の健闘により決勝トーナメントまで勝ち上がってきた会員たちに向けて、結果を気にすることなく最後まで試合を楽しむことが大切だと伝えようとした。

4 試合中に相手チームの弱点に気づいたものの、満員の客席から動くことができないため、身振りにより相手が恐るるに足りないことを会員たちに伝えようとした。

(オ) ――線5「そして夕焼の素晴らしさは、そんなぐちゃぐちゃした人間でも、いや、ぐちゃぐちゃした人間だからこそ、身に染みるんです！」とあるが、ここでの「夏樹」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 自分たちの句の魅力を十分に伝えられないばかりか、相手チームからの的確な指摘に対して、うまく反論することもできないもどかしい気持ちを込めて読む。

2 圧倒的にきれいな夕焼けを前にして実感した人間の小ささやみすぼらしさというものに対して、自分は後ろ向きな気持ちにならないという決意を込めて読む。

3 夕焼けの壮大さを伝える中で、発言中に思い至った人間の小ささや複雑さを自分の内に見いだし、それを自分の身に重ね合わせたときの実感を込めて読む。

4 まだ整理のつかない厄介な感情をもてあましていた自分が、実際に夕焼けを見たときのまっすぐで開放的な光景に、心から救われたことへの感謝を込めて読む。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 熱気を帯びた試合が展開することで徐々に強まっていくチームの結びつきを、「夏樹」の視点を中心に、俳句の鑑賞の応酬を効果的に用いることで生き生きと表現している。

2 苦しい試合の展開にもひるむことなく、果敢に立ち向かいながら成長していく「夏樹」の様子を、それぞれの登場人物の内面を多角的に織り込むことで丁寧に表現している。

3 五分五分の状況で試合が進んでいく中で、次第に揺らいでいく「夏樹」や登場人物たちの心理状態を、比喩や感嘆符を用いた軽妙な語り口によって鮮やかに表現している。

4 相手の立場や考えの違いを乗り越えて受け入れられるようになっていく「夏樹」の成長の様子を、俳句の鑑賞に関する知識を織り交ぜながら淡々と表現している。

問四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かつてのモラトリアム(注)というのは、半人前扱いで肩身が狭く、権利も大きく制限され、不自由で居心地が悪いため、若者はそんな状態を脱して早く一人前の大人になりたいと思った。［　A　］、かつてのモラトリアムは、義務はないけど権利もなく、一刻も早く抜け出したい不自由な時期だった。

それに対して、現代のモラトリアムは、義務はないのに権利はあるため、いつまでも抜け出したくない自由で気楽な時期といった感じになっている。［　B　］、アルバイトでもすれば、消費者としての権利を享受できる。定職に就かず、稼ぎがすくなくても一人前に意見を主張することができる。

そうした変化には、物質的に豊かな社会、価値観の多様化、技術革新による変動の激しい社会といった要因が関係しているといってよいだろう。

IT革命(注)など、科学技術の絶え間ない革新により、人々の働き方もライフスタイルも目まぐるしく変わり続け、まったく先が読めないために、将来も視野に入れた最適の職業選択が困難になった。そんな時代ゆえに、無理に自己確立などせずに可能性を残しておきたい、とりあえずは自由気ままに漂っていたいと思うのも不思議ではない。

こうしてモラトリアム心理が世の中に蔓延(まんえん)し、決断を先延ばしにしていつまでも自由に漂っている若者が増えてきたというわけだ。

一人前の大人になること。これは自己の確立と言い換えることもできるが、それには何らかの社会的役割を担(にな)うことができると周囲から認められることが必要となる。そこに、さらに現代では、「自分らしく」ということが加わる。単に何か社会的役割を担えればいいというのではなく、自分らしい役割を引き受けたいという思いがある。

ここで、アイデンティティについて、考えてみよう。

エリクソン(注)のいうアイデンティティには、つぎの三つの側面が含まれるといえる。

①自分というまとまりがあり、それが時間的に連続性を保っているという感覚

②そのような自分らしさを他者も認めているという感覚

③自分が社会的役割を担う存在になっているという感覚

①は、自分がそのときどきで気まぐれな行動を起こしているのではなく、何らかの一貫性があり、それが自分らしさだといった感じを指している。

ここで注目したいのは、②と③だ。これらが意味するのは、アイデンティティ確立の条件として、他者からの承認が必須だということ、それには社会の中で何らかの役割を引き受けることが必要になるということだ。

アイデンティティの発達についての研究を精力的に進めている心理学者クロガーも、「エリクソンにとって、アイデンティティの最適な発達は、コミュニティ(注)の中に個人の生物学的・心理的能力および関心によく『フィットした感じ』を与える社会的役割や適所を見つけることを含むものである。」と述べている。

このように、社会の中に自分の能力や関心によくフィットした役割や居場所が見つかったとき、アイデンティティが確立できたことになる。つまり、アイデンティティの確立のためには、他者から［　I　］が得られ、かつ自分らしい［　II　］を担えるようになることが必要なのだ。▲

そうは言っても、自分はどう生きるべきか、どんな生き方が自分らしいのかという問いに答(こたえ)を出すのは容易ではない。しかも、周囲から認められ社会に役立つ生き方という点とも折り合いをつけなければならない。

モラトリアムを維持しながらも、限りなく自己実現を求め続ける人物。それが新たな時代の適者かもしれないといって、プロテウス的人間という生き方を描いたのは社会学者リフトンである。

プロテウスというのは、自分の姿をヘビやライオン、竜、火、洪水などに変幻自在に変えることはできるのに、自分自身のほんとうの姿を現すことのできないギリシア神話の海神の名前だ。

プロテウス的人間とは、環境の変化に応じて自分自身を変身させ、そのつど自己の可能性を最大限発揮しようとするタイプを指す。

このように一見すると一貫性がなく、バックボーンが欠けた人物は、変動の少ない伝統的社会の価値観からすれば、主体性がなく、安定せず、信頼できないといって否定的に評価されたはずだ。

でも、現代ではどうだろうか。こちらがある仕事に身を捧げようとしたところで、働き盛りの頃にはその仕事がなくなっているということだって、十分あり得るのだ。このような変動の激しい時代を生き抜くには、まさに[2]プロテウス的な生き方が求められているのではないか。

職業選択がなかなかできない若者が増えているのも当然のことだ。こんなに変動の激しい時代なのに、仕事を一生ものなどと大げさに考えるから決断ができなくなる。とりあえずは今の状況で最善と思える選択をすればよい。

判断を誤ることはよくあることだし、やってみなければ自分に合うか合わないかなんてわからない。どうしても合わなければ変えればよいだけのこと。状況が変われば、それに応じて仕事を変えることもあるだろう。それは、根気がないなどと非難されることではない。状況が変わったということは、判断の前提が変わったわけだから。

そんなふうに状況に応じて新たな価値観や仕事に柔軟に自分を適応させていく。しかも、いい加減とか中途半端というのではなく、それぞれの時点では自分が傾倒する役割に没頭し、全力で立ち向かう。ただし、そこに自己のアイデンティティを限定せずに、別の可能性にも自己を開いておく。気になることには目を向ける気持ちの余裕をもつ。このような生き方こそが、変動の激しい現代にふさわしい生き方と言えないだろうか。

ただし、プロテウス的生き方を押し通すには、自己を防衛したりせず、あらゆるものに心を開き、一面的にならないのはもちろんのこと、幅広く揺れ動き、あらゆる局面に身をおきながらも、けっして統合力を失わないような強さと柔軟性が求められる。

会社や組織のような所属集団や肩書に心の安定を求めることなく、その時々に自分がとくに価値を感じるものにすべてをぶつけていく生き方は、一貫性がなく意志が弱いとか気まぐれなどとする保守的人間の評価とは逆に、じつは強靭な意志、繊細で鋭敏な感覚、宙ぶらりんの状態をもちこたえられる忍耐力がなければならないのである。

だれにもいろんな可能性がある。でも、[3]これまでは、ひとりの人間のもつ多様な可能性の中からひとつを選び取ると、他のすべてを捨てるというのが一般的だった。

アイデンティティを確立するというのは、それ以外の可能性を切り捨てること。それによって自己を特定の社会的役割に縛りつけること。そのようにみなされてきた。大人になるというのは、ある意味では諦めることだ。そんなふうにも言われてきた。

でも、僕たち人間は、そんな単純にはできていない。非常に多面的な存在だ。技術的なことに興味をもつこともあれば、芸術的なものに惹かれることもある。科学的なことに関心をもつこともあれば、文学的な世界に引き込まれることもある。現実的な社会問題が気になることもあれば、メルヘン的な世界に浸り

たくなることもある。そんな自分をたったひとつの生き方に封じ込めるなんて不可能だ。僕自身、いつもそんなふうに思って生きてきた。

自分をひとつの可能性に封じ込めるような生き方を貫くには、他の自分を抑圧し続けなければならない。そのために多大なエネルギーを消耗する。そもそも固定的なアイデンティティというものによって多様性をもつ自分の人生を単線化するのは、労働の分業によって社会を安定化させるためとみることができる。

ところが、社会そのものの変動が激しくなり、労働の形態も著しく変化する今日、無理して自分の人生を単線化したとしても、社会のほうが変わってしまい、適応できなくなるということも起こってくる。

それならば、なにも無理をして自分をひとつの道に封じ込めなくてもいいじゃないか。そう考える若者が増えてくるのも当然だろう。そこまで整理して考えているわけではなくても、どこかでひとつの社会的役割に徹しきれない自分をもてあまし気味になる。

大人になれない若者とか、モラトリアムから抜け出そうとしない若者の増加は、現代という時代状況が生みだした現象といえる。もともとモラトリアム的な生き方は、夏目漱石(なつめそうせき)(注)の描く世界の高等遊民のように、特権階級でないと享受できないぜいたくなものだった。

豊かな時代。価値観が多様化した自由な時代。変動の激しい時代。そんな時代状況のせいで、[4]自分を封じ込めない生き方が大衆化した。このように考えると、大人になれない若者の増加という現象にも、否定的側面だけでなく肯定的な側面もあるように思われる。

そんな視点からすれば、今の時代に求められるのは、個人をひとつの道に封じ込めるような硬いアイデンティティではなく、さまざまな可能性に開かれており、試行錯誤や方向転換を続けても壊れないような、いわば柔らかいアイデンティティをもつことなのではないだろうか。

（榎本(えのもと)　博明(ひろあき)「〈自分らしさ〉って何だろう?」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）モラトリアム＝青年が社会人としての義務を猶予されている期間。
IT革命＝情報技術の発展や普及に伴う社会の急激な変化のこと。
エリクソン＝精神分析学者（一九〇二～一九九四）。
コミュニティ＝地域社会。共同体。
高等遊民＝高等教育を受けながら、職業に就かずに暮らしている人のこと。

(ア) 本文中の［A］・［B］に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　A　つまり　　B　たとえば　　2　A　さて　　B　まさか
3　A　しかし　　B　ところで　　4　A　おそらく　　B　または

(イ) ――線1「モラトリアム心理が世の中に蔓延し、決断を先延ばしにしていつまでも自由に漂っている若者が増えてきた」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　消費者として一人前に意見を主張しすぎるあまり、アルバイトによる社会との関わりだけでは物足りなくなり、多くの若者が物質的な豊かさを求めて自己を確立しておきたいと考えているから。
2　義務はないが権利のある現代のモラトリアムが自由で気楽な時期になっているうえに、社会が変わり続けて先を見通せないので、多くの若者が将来の可能性を残しておきたいと考えているから。

3　居心地の悪かったモラトリアムが気ままで楽しい時期に変化したうえに、ＩＴ革命の出現によって世界中の人々と交流できるので、多くの若者が最新の情報に触れておきたいと考えているから。

4　文学的な世界や芸術的なものに浸りたくなるあまり、将来を考えて定職に就いたあとでも、多くの若者が文学館や展覧会などを巡る至福の時間をいつまでも確保しておきたいと考えているから。

(ウ)　本文中の［Ⅰ］・［Ⅱ］に入れる語句として最も適するものを、［Ⅰ］については**漢字二字**で、［Ⅱ］については**漢字五字**で本文の最初から▲までの中からそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

(エ)　――線2「プロテウス的な生き方」とあるが、それはどのような生き方か。次の①、②の条件を満たし、**全体で五十五字以上六十五字以内の一文**で書きなさい。

① 文末は、［生き方。］で終わること。これも全体の字数に入れること。
② 「アイデンティティ」という語を用いること。

(オ)　――線3「これまでは、ひとりの人間のもつ多様な可能性の中からひとつを選び取ると、他のすべてを捨てるというのが一般的だった。」とあるが、「これまで」の状況を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　個人が他の可能性を捨てて特定の役割を担うことによって、社会を安定させてきたということ。
2　個人がすべての可能性を封じて無欲に生きることによって、他者の評価を得てきたということ。
3　個人が特定の可能性を全力で追求することによって、自分の幸福だけを考えてきたということ。
4　個人があらゆる可能性を模索することによって、社会をよい方向に発展させてきたということ。

(カ)　――線4「自分を封じ込めない生き方が大衆化した。」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

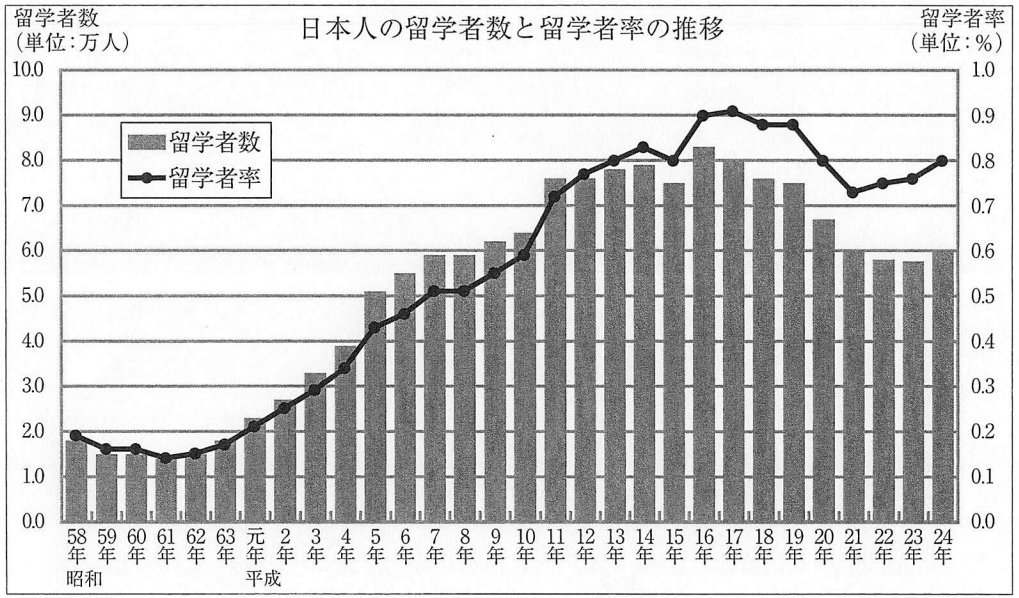
1　生き方を模索していく過程で、自分を抑圧する生き方を受け入れる代わりに、試行錯誤や方向転換を求められてもつぶれないように柔軟に対応する若者が増えてきたということ。
2　伝統的社会の価値観に合わせているうちに、自分の考え方や行動様式が無意識のうちに形成されていき、一人前の大人の役割を果たすことのできる若者が増えてきたということ。
3　現実的な社会問題やメルヘン的な世界など、自分の興味を絞ることができない若者が、心の安定を求めて会社や組織のような所属集団や肩書を頼るようになってきたということ。
4　変動の激しい時代には労働の形態も著しく変わるため、若者が無理に自分の人生を単線化することなく、ひとつの生き方に縛られない選択ができるようになってきたということ。

(キ)　本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　大人になれない若者が急増している現象に対して危機感を抱きながら、価値観の多様化した時代において自己実現が難しいことをふまえ、確固たるアイデンティティの枠組みを提案している。
2　モラトリアムから抜け出さない若者について否定的に論じながら、高等遊民の生き方をすべての人たちが享受できる豊かな時代をふまえ、理想的なアイデンティティのあり方を提案している。
3　かつての若者と現代の若者のモラトリアムの違いを比較しつつ、変動の激しい時代にふさわしい生き方について学者の見解を引用しながら、新たなアイデンティティのあり方を提示している。
4　若者の多面的な存在を尊重してきた過去を振り返りつつ、職業選択が困難な時代にふさわしい生き方について若者の意見をふまえながら、普遍的なアイデンティティの枠組みを提示している。

問五　中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、社会のグローバル化が進み海外の人との交流が増えることをふまえて「総合的な学習の時間」に日本人の留学者数などについて調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、表と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ1



文部科学省「日本人の海外留学状況」総務省「人口統計」より作成。留学者率は19～24歳人口に占める留学者の割合。

グラフ2

表

出身国(地域)別留学生数
(日本語教育機関の在籍数を含む)
平成25年5月1日現在

国(地域)名	留学生数
中国	97,875 人
韓国	17,283 人
ベトナム	13,799 人
ネパール	5,807 人
台湾	5,660 人
タイ	2,876 人
インドネシア	2,787 人
マレーシア	2,378 人
アメリカ合衆国	2,275 人
ミャンマー	1,598 人
その他	15,807 人
計	168,145 人

(グラフ2、表) 独立行政法人日本学生支援機構「平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果」より作成。

Aさん　グローバル社会を迎え、これから海外の人たちと交流する機会がますます増えてくると思います。そこで、集めたグラフや表をもとに、私たちが意識しなければならないことについて考えてみましょう。まずは、日本人の留学者数は、どのように変化しているでしょうか。

Bさん　グラフ1を見ると、平成16年の八万三千人を頂点に平成23年には五万八千人と日本人の留学者数が大きく減少しているようです。

Cさん　ということは、日本では留学しようと思わない「内向き」の若者が増えているのでしょうか。

Dさん　ところが、そうとも言い切れないようです。平成13年と平成24年とを比較すると、たしかに日本人の留学者数は七万八千人から六万人まで減っていますが、[　　]これは少子化によって調査対象となる若者の人口が減ったことによるものだそうです。

Cさん　なるほど、日本の若者が留学に消極的になっていると言い切れないわけですね。

Aさん　逆に日本に来る外国人の留学生数は、どのように変化しているでしょうか。

Bさん　グラフ2を見ると、日本の高等教育機関における外国人の留学生数は、この十六年間で二倍以上に増えています。これも社会のグローバル化が進んでいる一つの表れと言えるかもしれません。

Cさん　表を見ると、実にさまざまな国々から日本に留学生として来ていることがわかります。国別では、

アメリカ合衆国からの留学生が一番多いと思っていましたので意外でした。

Dさん　傾向として、中国や韓国、ベトナム、ネパールなどアジアの国々からの留学生が多いようです。一口に外国人の留学生といっても英語圏の人たちとは限らないことがわかります。

Bさん　ということは、海外の人たちと交流するために、英語を勉強することはもちろん、英語以外の言葉にも興味を広げておくことを意識しなければならないということですね。

Aさん　そう思います。そこでこうした状況をふまえ、私たちが海外の人たちと交流するために意識するべきことについて、もう少し考えてみたいと思います。

Cさん　私は、海外の人たちにもっと日本のことをよく知ってほしいと考えています。そのためには、交流にあたって私たちが、日本の文化を理解しておくことも必要であると思います。

Dさん　また、国によって文化や価値観が異なるわけですから、そうした違いをふまえて意思を伝え合おうとすることも大切だと考えます。

Aさん　ここまで、海外の人たちと交流するために私たちが意識しなければならないことについて話してきましたが、それぞれの内容については、Bさん、Cさん、Dさんがまとめてくれていたように思います。それらをふまえ、海外の人たちと交流するために必要なことについて改めて整理すると、

「私たちは、　　意識をもつべきだ。」

ということになります。

私たちもグローバル社会に生きているということを、もっと受け止めるようにしましょう。

(ア)　本文中の［　　］に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　このことで留学者数が約四割減少していることがわかります。
2　このことで留学者数が約六割減少していることがわかります。
3　それにも関わらず留学者率は約二割増加しています。
4　それにも関わらず留学者率はほとんど変わっていません。

(イ)　本文中の［　　］に適する「Aさん」のことばを、次の①、②の条件を満たし、**全体で七十五字以上八十五字以内の一文**で書きなさい。

①　書き出しの［私たちは、］という語句に続けて書き、文末は［意識をもつべきだ。］で終わること。これらも全体の字数に入れること。
②　「意識しなければならない」三つの点に触れていること。

（問題は、これで終わりです。）

Ⅱ 国語 解答用紙

（平成二十八年度）

受検番号

番

氏名

問一

(ア) 1 3

(イ) 1 3

(ウ)

(エ)

3 1

4 2

(す)

(わしさ)

各二点

問二

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

各四点

問三

(ア)

(イ)

(ウ)

真名と瑞穂先輩は、

45

55

(エ)

(オ)

(カ)

(ア)二点、(ウ)六点、他は四点

問四

(ア)

(イ)

(ウ)

Ⅰ

Ⅱ

55

(エ)

65

(オ)

(カ)

(キ)

(ア)二点、(エ)六点、他は四点、(ウ)は両方できて正解

問五

(ア)

(イ)

私たちは、

85

75

(ア)四点、(イ)八点

問	一	二	三	四	五
得点					

計

Ⅱ 国語

正答表並びに採点上の注意

（平成二十八年度）

問一

(ア) 1	せんせい	(ア) 3	ふんがい
(ア) 2	ちょうやく	(ア) 4	わずら（わしさ）
(イ) 1	財源	(イ) 3	編隊
(イ) 2	忠告	(イ) 4	蒸（す）

(ウ) 3　(エ) 2

問二

(ア) 2　(イ) 1　(ウ) 4　(エ) 3

問三

(ア) 3　(イ) 4

(ウ) 真名と瑞穂先輩は、発言に自信がないサインを出したので、自分が発言して鑑賞点を取らなければならないという気持ち。

(ウ)は正答例。

(エ) 2　(オ) 3　(カ) 1

問四

(ア) 1　(イ) 2　(ウ) Ⅰ 承認　Ⅱ 社会的役割

(エ) それぞれの時点では自分が傾倒する役割に没頭しつつも、そこに自己のアイデンティティを限定せず、別の可能性にも自己を開いておく生き方。

(ウ)は両方できて正解。(エ)は正答例。

(オ) 1　(カ) 4　(キ) 3

問五

(ア) 4

(イ) 私たちは、英語を勉強することはもちろん、英語以外の言葉にも興味を広げ、日本の文化も理解しつつ、国による文化や価値観の違いをふまえて意思を伝え合おうとする意識をもつべきだ。

(イ)は正答例。

問	一	二	三	四	五
配点	各2点 計20点	各4点 計16点	(ア)2点、(ウ)6点 他は各4点 計24点	(ア)2点 (エ)6点 他は各4点 計28点	(ア)4点 (イ)8点 計12点

計
100点

採点上の注意

問一 ㈠について

① 字体については、平成二十二年十一月三十日内閣告示第二号『常用漢字表』によること。あとに、それに基づく許容例を示す。『常用漢字表』は、以下の文化庁ホームページからダウンロードできる。http://www.bunka.go.jp

〈許容例〉

1 財 → 貝（あき）　源 → 白（あき）　小（止め）

3 編 → 糸（方向）（はね）（止め）（点）　隊 → 糸（止め）

4 蒸 → 丞（止め）（①方向）

② 疑問点は複数の採点者によって判断し、校内で統一すること。

【抜き出し問題について】

① 完全正答とし、内容についての中間点を設けないこと。誤字・脱字についても減点対象とはせず、誤答とする。

② 疑問点は複数の採点者によって判断し、校内で統一すること。

【記述問題について】

① 正答例以外の文であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば正答とする。

② 内容については、中間点を設けない。

③ 誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があった場合は、その数にかかわらず二点減点とする。誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

④ 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者によって判断し、校内で統一すること。

⑤ 疑問点は複数の採点者によって判断し、校内で統一すること。

問三 ㈢について

① 中間点は、誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があった場合と表現に問題があった場合の減点以外は設けない。したがって、中間点は四点または二点となる。

② 内容については、次の二点に触れていること。

真名と瑞穂先輩は、「（発言に）自信がない」こと。

「自分（夏樹）が発言しなければならない」こと。

〈正答例〉

真名と瑞穂先輩は、自信がない様子であり、その分を夏樹がしゃべらなければならないという気持ち。

問四 ㈢について

① 完全正答とし、内容についての中間点を設けないこと。誤字・脱字についても減点対象とはせず、誤答とする。

問四 ㈣について

① 中間点は、誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があった場合と表現に問題があった場合の減点以外は設けない。したがって、中間点は四点または二点となる。

〈正答例〉

自己のアイデンティティを限定せずに環境の変化に応じて柔軟に自分自身を変化させ、そのつど自己の可能性を最大限発揮しようとする生き方。

あらゆる局面で統合力を失わない強さと柔軟性のあるアイデンティティをもちながら、その時々に価値を感じるものにすべてをぶつける生き方。

問五 ㈠について

① 中間点は、誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があった場合と表現に問題があった場合の減点以外は設けない。したがって、中間点は六点または四点となる。

② 内容については、次の三点に触れていること。

「英語を勉強することはもちろん、英語以外の言葉にも興味を広げる」こと。

「日本の文化を理解する」こと。

「国による文化や価値観の違いをふまえて意思を伝え合う」こと。

〈正答例〉

私たちは、

自国の文化を理解しつつ、互いに文化や価値観の違いをふまえて意思を伝え合えるよう、英語を勉強するだけではなく英語以外の言葉にも興味を広げてお　く意識をもつべきだ。